

令和7（2025）年度 家庭教育オピニオンリーダー研修①、 家庭教育支援プログラム指導者研修① 実施報告

実施日：令和7（2025）年6月18日（水）

本研修では、第1回目は、「家庭教育オピニオンリーダー研修」、「家庭教育支援プログラム指導者研修」を合同で実施し、37名の受講者がオンラインで受講しました。

○ 説明「本県の家庭教育支援について」

栃木県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 武田 総

はじめに、受講者同士で自己紹介を行い、本研修をとおして学びたいことや意気込みについて共有しました。

前半では、近年の社会の変化に伴い生じている家庭教育や子育てに関する課題、家庭教育の法的な位置づけについて確認がありました。また、保護者が安心して子育てや家庭教育に取り組めるよう、地域による支援の重要性についても説明がありました。

後半では、本県の家庭教育支援施策及び家庭教育支援事業について説明があり、家庭教育支援プログラムの普及・定着、家庭教育オピニオンリーダーの養成、研修修了者による実践例などが紹介されました。また、令和6年度から推進している、アウトリーチ型家庭教育支援事業についても説明がありました。

受講者は、過去に本研修を修了した方々が各市町において、地域に根ざした家庭教育支援活動を継続的にやっていることや、社会全体で子どもたちを育んでいくことの大切さについて学びを深めました。



○ 講話「家庭教育の現状と課題、及びその方策」

宇都宮共和大学子ども生活学部 学部長・教授 杉本 太平 氏

前半では、家庭教育の現状と課題について、育児不安感やメディア依存、コロナ禍によって顕在化した新たな課題などについて話がありました。特に、母親の育児不安感については、夫側の困難感と育児関与、睡眠との関連、人間関係力、さらには親子関係の形成不全が深く関わっているとの説明がありました。



後半では、家庭教育の支援策について示されました。地域の家庭教育支援者として期待される役割、相手を理解するためのカウンセリングや傾聴のスキルの必要性などについても、具体的な事例を交えながら分かりやすく話されました。最後に、コミュニケーションワークの時間があり、傾聴や適切なフィードバックなどを受講者同士で体験的に学ぶことができました。

研修全体をとおしての振り返りから、受講者がこれまでの家庭教育に関する自身の取組を振り返ったり、今後取り組んでいきたい活動のイメージを描いたりしていることが伺えました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ 武田さんの説明で、家庭教育オピニオンリーダーの必要性や責務を改めて認識することができ、杉本教授の講話で共感やフィードバックの重要性がよくわかりました。
- ・ 子どもは家庭の中だけで育っているわけではなく、地域、学校、社会といろいろなところと共にあることを学びました。家庭内で共働きや多彩なメディアにより関わりが減る一方で、時代と共に家庭外での関わりも減り、子どもも親も、高齢者にいたるまで、幅広く孤立という課題があると感じました。また、個人的には「ネウボラ」というフィンランドの拠点を知らなかったのも、とても興味深く、自主学習としても学んでいきたいと思いました。
- ・ どちらの講座もとても勉強になる内容でした。ありがとうございました。また、グループワークがあったことで学びが深まってよかったです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp